

被災後の学級運営での留意点

教職員の方へ

大きな災害が起きたあとは、児童生徒が安心感を取り戻せるような学級運営が求められます。児童生徒にとって、学校が安全な場と感じられることで、元気を取り戻しやすくなります。児童生徒の心身の変化を理解したうえで、それぞれの状態にあわせて対応してください。具体的な学級運営での留意点をまとめました。

被災体験、喪失体験、混乱によって、児童生徒にさまざまな影響があらわれることがあります。

学級のなかでは以下のような様子がみられます。



- ➡ 落ち着きがなくなり、いつもそわそわしている
- ➡ すぐに泣いたり、不安になったりして、教職員のそばから離れようとしな
- ➡ 言葉づかひや態度が乱暴になり、すぐにカッとなったり、大声を出したりする
- ➡ 妙に元気そうに見えたり、テンションが高く、はしゃいだりする
- ➡ 何度もトイレに行ったり、体調不良を訴えて、保健室に行くことが増える
- ➡ 食欲がなく、給食を残す
- ➡ 友だちと遊ぶことが少なくなり、ひとりぼっちで過ごしたり、学校を休みがちになる
- ➡ ひとりで登校や外出ができなくなる
- ➡ 学習でミスが増えたり、ぼーっとしていたり、忘れ物が増えたりする
- ➡ 片付けや掃除ができず、教室の中が乱雑になったり、学級の雰囲気が悪くなったりする

児童生徒が自分らしくいられる学級づくり

被災による影響は人それぞれ異なります。気持ちや体調、生活状況もさまざまです。学級のなかで、無理をしている児童生徒がいないか、孤立していないか、よく注意しましょう。無理に話を聞き出さず、「いつでも話を聞くよ」などと声をかけて様子を見守ってください。日記や絵画、遊びなどに表わされた児童生徒の気持ちを理解することも大切です。



児童生徒の体調や状態に合わせた対応

被災のショックや生活の変化などから、頻尿や体調不良などの症状が起こりやすくなります。「授業の途中でも（先生に声をかけて）トイレに行っていていいですよ」「気分が悪いときは、がまんせずに言いましょう」などと伝えておくだけで、安心して教室にいられるようになります。

できていることを見つけて評価する

児童生徒ができなくなったことのみ注目せずに、少しでもやれていることを見つけて、ほめることが自信の回復につながります。

取り組みやすい授業や活動の工夫

落ち着きがなくなり、集中力が続かない児童生徒のために、わかりやすい教材や説明、短い時間に区切った活動にするなど工夫しましょう。



児童生徒の心身の状態に合わせた授業や活動をおこなうことで、
児童生徒の自信を高め、スムーズな学級運営をすることができます。

こんな工夫をすることができます

特別なことをするのではなく、
ふだんどおりのことをていねいに！

1. 説明や指示は短く、簡潔に

児童生徒は落ち着きがなくなり、集中力が続かないことが多いので、説明や指示は短く、簡潔にしましょう。場合によっては、絵や図など視覚的にもわかりやすい教材を使うと、理解しやすくなります。



2. 気分転換やリラックスさせる

授業の導入や終了時に、簡単なゲームやレクリエーションなどのワークを行うと、気持ちを切り替えて集中したり、リラックスできたりします。座ったままからだを伸ばすストレッチなども効果があります。学級や学年ごとに楽しめるような活動を組むのもよいでしょう。

3. 表現したり、からだを動かす

音楽や図工（美術）、家庭科や体育などの教科は、児童生徒が自由に表現をしたり、声を出したり、からだを動かしたりできるものです。



他の教科とうまく組み合わせた時間割をつくとよいでしょう。

以前よりも作品をつくるのに時間がかかったり、後片付けが雑になりがちです。そのため、複雑な作業やむずかしい課題は避け、簡単で、完成しやすいものにし、児童生徒がケガをすることのないよう、気をつけてください。

4. 静かで、落ち着いた時間をつくる

学級が落ち着かないときは、読書や読み聞かせ、漢字練習や視写などをして、静かで集中できる時間をつくと、児童生徒は落ち着いていきます。

負担がかかりすぎない内容や量の課題を選ぶようにしましょう。

5. 体験学習で達成感を

学級で力を合わせて取り組む課題や行事、あるいは地域の役に立つようなボランティア活動などの体験学習をすることは、児童生徒の達成感を高めます。

ただし、児童生徒が自分のペースで取り組むことが大切なので、無理をしていないか、様子をよく見ながら進めてください。



個別対応と学級対応

授業中に歩き回ったり、大声を出したり、突然、被害の話を始めた児童生徒がいたときには、「席に戻ろうね」「話はあとで聞くからね」と対応し、その後、休み時間や放課後などに個別で話を聞くようにします。他の人に迷惑をかけたり、暴力をふるったときには、その場でしっかりと注意します。ある児童生徒の行動や話が学級全体で共通する内容であれば、「みんなで考えてみようか」などと話題に挙げてよいでしょう。安心感が高まるような話し合いになることを心がけてください。

教職員の配慮ある対応は、児童生徒が他の人をサポートするうえでのよいモデルとなります。
教職員間で助け合いながら、教員としてできることをていねいにやっていきましょう。